

2016年度 日本フランス語フランス文学会

東北支部大会（山形）

日時：2016年11月26日（土）13:00～17:30

会場：山形大学人文学部1号館3階 301教室

〒990-8560 山形市小白川町一丁目4-12

大会プログラム

12時00分～ 受付

13時00分～ 開会の辞

主催校 合田陽祐

山形大学理事 阿部宏慈

支部長挨拶 東北大学 阿部宏

13時10分～13時45分 研究発表

矢野禎子（東北大学大学院博士課程）「日本人の持つ日仏の表象と所属意識」

13時50分～16時40分 シンポジウム

「フィクション化する世界」

宮腰直人（山形大学）「説話とフィクション」

柿並良祐（山形大学）「文学を語／騙るのは誰か？」

摂津隆信（山形大学）「本物≠フィクション？」

—「リミニ・プロトコル」の上演法について—

合田陽祐（山形大学）「パタフィジックとフィクション」

テーブルロンド

16時40分～17時30分 総会

17時30分 閉会の辞

主催校 合田陽祐

18時30分～20時30分 懇親会（会場：ホテル・キャッスル 一般6000円 学生3000円）

シンポジウム「フィクション化する世界」要旨

「フィクション」とは書店や図書館でもよく見かける、ありふれた単語である。しかし、いざこれを日本語に翻訳するとなると、「虚構」や「嘘」ではこぼれ落ちてしまう要素が多いのではないだろうか。例えば「フィクション作品」を読むとき、私たちが没頭しているその行為、その時間は紛れもない現実味を持っているはずだ。

そこで本シンポジウムでは、「フィクションと現実世界は切り離すことができない」という基本命題を共有して議論をおこないたい。また、フランス文学や思想に限らず、日本文学やドイツ文学の研究者を招いて文学・文化研究一般を見据えたシンポジウムを目指す。

以下に示すように、文学や哲学作品の具体的な分析を通じて、フィクションがどのように機能しているか、フィクションと現実の関係はどうなっているか、あるいは、いかにして現実がフィクションとなるのか、といった問題について考察する。

まず宮腰は、地獄極楽遍歴譚『孝子善之丞感得伝』をとりあげ、フィクション的世界をえがく説話文学の方法を、絵画資料を交えながら明らかにする。続いて柿並は、ラクー＝ラバルト&ナンシーをとりあげ、「書く主体」と「ミメシス（模倣）」の関係について考察する。摂津は、ドイツの演出家集団「リミニ・プロトコル」の上演法を例に、「演戯」「フィクション」「リアリティ」「日常」について検討する。最後に合田は、ジャリの「パタフィジック」をとりあげ、そのフィクション論としての側面を浮き彫りにする。ターブルロンドでは、以上を踏まえて、登壇者が議論を交わすだけでなく、会場の聴衆を交えた活発な意見交換をおこないたい。